

DUCTILE TIMES

2021年7月23日から東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されますね。

今大会で選手に授与されるメダルは、「サステナブルなメダル」といわれています。それは、メダルに使われる金属が使用済みの小型家電や携帯電話などから集めた素材を再利用しているからです。

いらなくなった小型家電が形を変え、アスリートにとってかけがえない宝物に生まれ変わると思うと何だかワクワクしますね。

DUCTILE TIMES編集部

DUCTILE TIMES バックナンバーが閲覧できます

弊社ダクトイル鉄管ホームページでは過去のDUCTILE TIMESを閲覧できます。下記URLまたはQRコードから是非ご覧ください



QRコード

https://www.kubota.co.jp/product/ironpipe/products/lineup/necs/ductile_times.html

施工情報システム

2021年3月号 (No.24) でもご紹介しました「施工情報システム」が、今月からサービスを開始いたします。

本システムは施工現場でスマートフォン (iPhone) 上のアプリケーションに**施工手順どおりに接合情報を入力し、接合した継手写真を登録するだけで、継手チェックシート等の施工管理書類がクラウドサーバー内で自動作成されます。**作成された書類はウェブサイト上でリアルタイムに閲覧・出力することが可能です。

本システムについては、ご希望のあったお客様に昨年からの試行的に実際にご利用いただきました。その中で「事務所での作業が大幅に減った」「入力したデータが端末保存されるため紛失もなく安心できた」「接合要領書が内蔵されているため施工の際に便利だった」等、好評の声を多数いただいております。

今後、施工品質をより一層向上させるため、ゴム輪の位置を容易に

測定し、データを送信できる「サイトチェッカー」や、専用治具にセットしたスマートフォンで撮影した写真の画像解析を行い、継手の屈曲角度を判定するアプリケーションも開発中です。

本システムのサービスのご契約希望やデモンストレーション実施のご要望等がございましたら、お気軽に弊社営業担当者までご連絡ください。



〈施工現場での様子〉

施工情報システムを採用された工事業者様の声

弊社では、徳島市上下水道局様発注の配水管布設替工事 (GX形φ75~150) において、クボタの施工情報システムを試験採用しました。

このシステムを使用することで、スマホ上でチェックシートの作成が現場で完了し、事務所で書類作成にかかっていた時間を大幅に削減することができました。

操作性については、慣れも必要ですが、総合的に見て、

社員の「働き方改革」に寄与する有効なシステムであると評価しています。

弊社では、施工情報システムやサイトコネクトⅡといった業務革新ツールを積極的に活用することで、「人手不足」という課題と向き合い、配管工事の効率化、工事の受注機会増加を目指していきます。



(徳島県徳島市 有限会社管建 島藤社長様)

弊社では、広島市水道局様発注の配水管改良工事 (GX形φ150) において、(株)クボタの施工情報システムを試験的に使用しました。

今までは、日々の配管作業が現場で完了した後、事務所に戻って日報やチェックシートの作成を行う必要がありました。その理由として翌日に水道局様に提出が必要なので、やむを得ない状況です。

施工情報システムを使用することで、現場で入力した内容を基にチェックシートが自動で作成され、事務所で印刷するだけで済むので、事務作業の低減につながります。現場でのスマホ入力作業もスムーズにできました。日報や配管図の機能を改善してもらえれば一層使いやすくなります。施工情報システムの更なる進化を期待しています。



(広島県広島市 株式会社高原設備工務店 河野部長様)